

提言第13号 胃瘻造設・カテーテル交換に係る死亡事例の分析

事例8

< 事例概要 >

（胃瘻カテーテル交換）

- ・ 20 歳代、脳障害で当該医療機関に入院中の患者。意思疎通困難、側彎、四肢拘縮あり。BMI 17.5 kg/m²。
- ・ 16 年前、他医療機関で胃瘻造設。当該医療機関で、3～6 か月ごとに胃瘻カテーテルを定期交換（交換前の胃瘻カテーテルはバンパー型）。
- ・ 病室で、バンパー型カテーテルに交換。カテーテル先端の胃内留置確認の実施なし。
- ・ 交換後、初回栄養剤注入後に発熱、呼吸促迫あり。3 回目の栄養剤注入後、四肢冷感、多量の発汗、腹部膨満あり。CT検査で胃瘻カテーテル先端が腹腔内にあり、多量の腹水を認め、交換当日に死亡。
- ・ 死因は、腹膜炎（疑い）。死亡時画像診断（Ai）無、解剖有。